


# 市民活動 助成金事業 事例



## 半田運河手作りいかだレース大会

事業分野	観光、環境保全	協働の形態	補助	継続	終了
団体名	半田運河の会				
助成期間	平成 24 年度から平成 26 年度まで	助成金総額	251千円		
協働のゴール	いかだレース大会を通じた水辺環境や景観の向上				
ポイント	半田運河が観光とまちおこしの拠点として再生される姿を市民に理解してもらおうことを目的として実施。				
<b>◆事業内容</b>					
<p>① 蔵のまちはんだの中心にあり半田市のシンボルである『半田運河』に多くの人々が参集し、愛着を高めてもらえる手作りいかだのレースを実施する。</p> <p>② 半田運河・水辺への親水感を啓蒙するための一環として、ヘドロ浄化を目的としたEMダンゴの投入を参加者とともに行う。</p>					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いかだレースの運営</li> <li>・ 行政、半田警察署、愛知県衣浦港務所など関係機関との折衝</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 半田運河の使用許可、水量管理（行政ほか）</li> <li>・ EMダンゴの提供（やなベエコラブ）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>いかだレースを通じて、市内の市民活動団体との連携や交流を図ることができた。</p> <p>また、当会が行っている半田運河周辺のクリーンアップやブラ散策、十ヶ川堤体の草刈り、スイセンの植樹など、半田運河の水辺環境や景観の向上にかかる活動を啓発することもできた。</p>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>半田運河の会は解散したが、当会の趣意書（一部抜粋）は次のようなものであった。</p> <p>『市では半田運河再活性化プロジェクトが策定され、それが動き出すなど、まさに半田の再活性の原点はこの運河といっても過言ではありません。（中略）皆さんの力を合わせ、半田運河が半田の観光の一大拠点になっていくことが、何よりも大切であると考えます。多くの皆さんにご賛同を頂き、半田の誇りを盛り上げていこうではありませんか。』</p>					

<b>亀崎思いやり応援隊 [K00] による「高齢者生活応援事業」</b>
---------------------------------------

事業分野	保健・医療・福祉	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	亀崎思いやり応援隊 [K00]				
助成期間	平成 25 年度	助成金総額	100千円(初動支援)		
協働のゴール	高齢者等の生活支援を通じた見守りと地域交流				
ポイント	ふくし井戸端会議での話題がきっかけとなり事業開始。 1回500円と設定することで持続可能な仕組みに。				
<b>◆事業内容</b>					
<p>高齢者や病弱な方などが一人では行うことが困難な作業に対し、会員がサポート。買い物応援、庭の草取り、網戸の張替えなど、会員がもつスキルを活かした内容で困りごとと支援を行う。</p> <p>また、困りごとと支援にあわせて、見守り活動や交流を図ることで要支援者が地域で過ごしやすい環境をつくりだす。</p>					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要支援者に対する活動者派遣</li> <li>・ 活動者のボランティア保険加入支援と応援道具の確保</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動資金の助成（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>助成金を活用して会の応援道具を整えることができたため、道具がないことを理由に要支援者の依頼をお断りとするケースが解消された。</p> <p>これにより、応援件数を増加、かつ、1件あたりの応援にかかる活動時間と人員の負担が減少できたことから、団体活動の活発化にもつながった。</p>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>高齢者生活応援事業のほかにも、町をきれいにする目的で公園の美化活動なども行っている。</p> <p>また、多世代での交流や活動が推進できるように、亀崎中学校の生徒にもK00ジュニアとして参加してもらい、この活動が地域に根づく仕組みづくりに取り組んでいる。</p>					

## 亀崎まちおこし事業

事業分野	まちづくり	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	NPO法人 亀崎まちおこしの会				
助成期間	平成 25 年度	助成金総額	100千円（初動支援）		
協働のゴール	亀崎地区の住民が気軽に集える活動拠点の設置とまちおこし				
ポイント	① 地域に寄付を頂いた活動拠点の維持と活用 ② 歴史、文化の継承				
<b>◆事業内容</b>					
① 拠点（藤友呉服店の土地、建物、蔵）の維持 ② 亀崎の山車、潮干祭の保存応援事業 ③ まちの伝統文化共感事業 ④ 地域活性化事業 ⑤ 子どもの創造性、自主性をサポートする事業					
<b>◆役割分担</b>					
団体	・活動啓発、会員募集 ・拠点の維持および利活用				
協働相手	・活動資金の助成（行政）				
<b>◆協働の成果</b>					
本助成金を活用し、会員募集の案内を作成。初年度は285の個人、法人会員（正会員、賛助会員含む）を獲得した。また、寄贈を受けた建物の名前を『まちかどサロンかめとも』とし、地域住民が気軽に立ち寄ることのできる場所として定着。さらに、活用策として亀崎潮干祭のパネルを作成し展示することで、観光客にも地域の拠点に足を運んでもらい、地域の拠点を知ってもらうきっかけにもつながった。					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
亀崎地区の子どもからお年寄りまでが『まちかどサロンかめとも』に集い、まちおこし、人づくりができるよう地域の市民活動団体とも連携し、情報発信や各種事業の企画、運営を行い、地域住民をさまざまな活動に巻き込んでいきたい。					


## 人と猫が共生できる街づくりをめざして

事業分野	環境保全	協働の形態	補助	継続	終了
団体名	半田地域ねこの会				
助成期間	平成 25 年度から平成 28 年度	助成金総額	100千円（初動支援）		
協働のゴール	地域の環境美化と地域住民が猫と共生できるまちづくり				
ポイント	自治区と協働で野良猫の数が今以上に増えないよう管理する。				
<b>◆事業内容</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 市と地域住民と協働し、野良猫の不妊、去勢手術を行う</li> <li>② 給餌場所の清掃、管理と適切な餌やり</li> <li>③ トイレを設置し、ふん尿の始末と管理</li> <li>④ ①～③を協働で継続実施できるよう、サポート、アドバイスを行う</li> <li>⑤ 地域に出向き、啓発活動（説明会）を実施</li> <li>⑥ 猫の里親探しとお見合い会の実施</li> <li>⑦ スポンサーとサポーターを募る</li> </ol>					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T（トラップ）、N（手術）、R（リリース）活動の実施</li> <li>・ 地域への説明会、サポート、アドバイス</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動場所、資金の提供（行政、自治区）</li> <li>・ 地域ねこの世話（自治区）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>市民活動助成金を活用したことで、資金面だけでなく、活動を行う当会の信頼度も高めることができた。これにより、地域の方々に活動を知ってもらい、理解してもらうまでの苦労が大きく軽減でき、活動がしやすくなった。</p>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>半田地域ねこの会は解散した。 現在は、地域ねこ活動を希望される方やTNR活動を支援したい方を随時募集している状況。（問合せ先：環境課）</p>					

## 稗田川をきれいにする


事業分野	環境保全、まちづくり	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	稗田川をきれいにする会				
助成期間	平成 26 年度	助成金総額	100千円（初動支援）		
協働のゴール	稗田川の浄化ときれいな川の維持				
ポイント	上流の大矢地区と横川地区、下流の乙川本郷地区が稗田川の浄化を共通の問題として捉え、浄化活動を行う。				
<b>◆事業内容</b>					
稗田川の水質浄化活動（EM菌の投入、竹炭の投入）					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動啓発</li> <li>・ 先進事例地の市民活動団体との関係強化</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動資金の助成（行政）</li> <li>・ 活動のアドバイス（市民活動団体）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>助成活動は水質浄化活動だったが、活動をきっかけに稗田川遊歩道の清掃活動、半田河川浄化大会での発表や説明会など、小・中学生からお年寄りまでが様々な活動に参加いただいた。</p> <p>また、川の浄化の必要性や汚してはいけないことが少しずつ理解してもらえるようになった。</p>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>稗田川の浄化活動を継続しながら、本活動に対する流域住民の理解が深まるような啓発活動を行う。</p> <p>また、上流部に位置する葭池の清掃活動も行うことで、きれいな川づくりにつなげていきたい。</p>					

## 横川小学校区夏祭り・盆踊り大会事業


事業分野	まちづくり	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	横川小学校区連絡調整会議				
助成期間	平成 26 年度から平成 28 年度	助成金総額	1, 2 2 7 千円		
協働のゴール	安心・安全なふれあいの地域づくり				
ポイント	横川小学校区内の4つの自治区の合同実施により、小学校区内の地域住民の交流を図り、顔の見える地域づくりを行う。				
◆事業内容					
<p>横川小学校および横川小学校区にある4自治区（上池区、横川区、大矢地区、乙川7区）および小学校PTAが域内交流と世代間交流を図るため、合同で盆踊り大会を実施する。</p> <p>これに関連し、横川小学校区連絡調整会議を中心とした顔の見える地域づくりと、4自治区の交流、連携の推進をおこなう。</p>					
◆役割分担					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊り大会の企画、運営</li> <li>・自治区、PTAなどによる夜店の実施</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動資金の助成（行政）</li> <li>・会場周辺警備（消防団）</li> </ul>				
◆協働の成果					
<p>横川小学校児童が授業等で学習した演目を発表する場にもしたことで、保護者や学校関係者の参加が増加し、域内交流の一助になっている。また、関係者同士の連携が強化できた。</p>					
◆協働の課題・展望					
<p>この事業をきっかけとし、子ども達が地域行事へ積極的に参加し、その姿を見た大人たちも楽しんで行事に取り組む。そんな中で、顔がわかり安心・安全なふれあいの地域づくりができ、様々な取組みが次世代につながってもらえるようにしていきたい。</p>					
					




## しん池／よし池／かご池 クリーン&かいどり作戦

事業分野	環境保全	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	乙北ため池クリーンの会				
助成期間	平成 27 年度から平成 29 年度まで	助成金総額	273千円		
協働のゴール	ため池内外の環境保全				
ポイント	小学校・中学校、地域の人が力を合わせることで得られる地域の交流				
◆事業内容					
<p>横川小学校区内のしん池・よし池・かご池を毎年ひとつずつ、ため池の水抜きによる水質改善を図り、池内外のごみ除去・清掃活動による環境整備を行う。</p> <p>同時に、生物の生息調査と観察会を行い、子どもたちの生物学習の場としたり、外来種の駆除を行い生態系の保全も図ったりもしている。</p>					
◆役割分担					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の企画、運営</li> <li>・ 参加者の募集</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成金の交付（行政）</li> </ul>				
◆協働の成果					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方や横川小学校児童、乙川中学校生徒など幅広い世代に参加してもらい、みんなで力を合わせて一体感を味わうことで、地域間交流と小中学生との世代間交流を図ることができた。</li> </ul>					
					
◆協働の課題・展望					
<p>横川小学校区の4区（大矢知区・上池区・横川区・乙川7区）や地元企業の協力を得ながら継続的に実施していくことで、参加者の環境美化意識の向上を図り、横川小学校区内のため池をきれいな状態で保ち続けていく。</p>					


## 高齢者・身体障がい者の日常生活での困り事の支援事業

事業分野	保健・医療・福祉	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	住吉ささえたい				
助成期間	平成28年度	助成金総額	100千円（初動支援）		
協働のゴール	住吉区がお互いを思いやる住みよいまち				
ポイント	住吉区の困りごとは地域の方で支えていく 定年退職後のセカンドライフとして特技を活かせる場				
<b>◆事業内容</b>					
住吉区の高齢者だけの世帯などで「今までできていたことができなくなった」、「一人ではできなくて困っている」という声に応え、片付け事や庭の草取りなど日常生活での困りごとを定年退職した地域の方がこれまでに培った技量を活用して支援していく。					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援要請を受け、下見と作業の計画を立てたうえで、解決を図る</li> <li>・ 住吉区民に対する広報活動</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成金の交付（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>助成金を活用して会の応援道具を整えることができたため、道具がないことを理由に要支援者の依頼をお断りとするケースが解消されました。</p> <p>これにより、1件あたりの応援にかかる活動時間と人員の負担が減少できたことから、団体活動の活発化にもつながりました。</p>					
					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
ボランティアスタッフを増やししながら、より多くのニーズに対応できるようにしていき、住吉区がお互いを思いやる住みよいまちを目指していく。					


## 公募絵画展「半田運河かいわいを描く」

事業分野	芸術振興、観光振興	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	NPO法人 半六コラボ				
助成期間	平成 28 年度から平成 30 年度まで	助成金総額	274千円		
協働のゴール	絵画展を通じた、市民による半田運河界隈の景観保全と観光振興				
ポイント	① 中埜半六邸母屋で行う公募絵画展の定着と冬季の観光資源化 ② 公募展のレベルを決める審査員と賞金の確保				
<b>◆事業内容</b>					
<p>半田運河周辺の景観形成重点地区を彩る四季の風景や風物、その中で生きる人々の営みを描いた作品をテーマとした絵画作品を全国に公募し、プロ画家育成の一翼を担う。</p> <p>併せて、中埜半六邸母屋を展示会場とし、市民や来場者に中埜半六邸を含めた半田運河界隈の風景に愛着を感じてもらい、景観保全と観光振興に資する事業として絵画展の定着を図る。</p>					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画の募集と展示場所の確保</li> <li>・ スポンサー企業の獲得と広報活動</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成金補助（行政、スポンサー企業）</li> <li>・ 広報活動（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>助成事業として開始から3年目、20歳から78歳の方から59点の作品応募をうけるまでに成長し、絵画展が定着しつつある。</p> <p>また、本事業の趣旨を理解いただき、スポンサーとして協賛いただける地元企業も少しずつではあるが増加している。</p>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>展示会の存在を知ってもらうための工夫として、別途、入賞作品展を開催している。</p> <p>課題は、公募展のレベルを決めるのは審査員と賞金の額と言われており、現在の水準を確保していくことが求められる。</p>					
					


## お米つくりと泥んこ大会

事業分野	まちづくり	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	大矢知区農園部				
助成期間	平成 28 年度から平成 30 年度まで	助成金総額	2 2 1 千円		
協働のゴール	お米つくりと泥んこ運動会を通じた横川小学校区のつながり作り				
ポイント	子ども、子育て世代、高齢者の3世代交流 高齢者の農業経験や技術、知恵を活かした活躍の場				
<b>◆事業内容</b>					
<p>休耕田を活用して、横川小学校の5年生と農作業をする地域高齢者及びPTAと一緒に、昔ながらのやり方で、お米つくりを実施している。</p> <p>普段泥んこになって遊ぶ経験のない子どもたちに豊かな自然に触れる喜びを感じてもらうことと田植え前に土を柔らかくすることを目的に、泥んこ運動会を開催している。</p>					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業経験を活かした企画・運営</li> <li>・ 農業経験者や地域の方など参加者の確保</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間での実施協力、児童へのチラシの配布（横川小学校）</li> <li>・ 地域住民への広報（横川小学校区区長会）</li> <li>・ 助成金の交付（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>参加する子ども、その保護者、教える側の地域の方の交流の場となり、災害時等に役立つ声を掛け合う地域住民のつながりが生まれた。</p> <p>米つくりを通して、子どもたちが地元の農業に興味関心を持つきっかけとなった。</p>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>横川小学校区の4区（上池区・横川区・7区・大矢知区）が合同の組織で実施できる体制を整え、多世代交流を通じて地域コミュニティの輪を広げていきたい。</p>					

## 科学にチャレンジ、不思議発見

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	半田市少年少女発明クラブ				
助成期間	平成 28 年度から平成 30 年度まで	助成金総額	375千円		
協働のゴール	ものづくりの土台となる科学の楽しさを子どもたちに伝える				
ポイント	理科離れの子どもが楽しさを感じられる科学体験教室 半田工業高校生の授業で培った実技経験が活かせる協働企画				
<b>◆事業内容</b>					
子どもたちが科学に興味を持ち、自分で考え工夫することで、科学の楽しさを感じられるよう、半田工業高校生とともに、科学の実験と工作体験教室を行いました。					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発明クラブ指導員のスキルを活かした企画・運営</li> <li>・企業協賛金の獲得、広報活動</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で培った実技経験を活かして企画・運営に協力（半田工業高校）</li> <li>・助成金の交付、市報等による広報（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
本事業を通じて、科学の実験や工作体験に興味を持ち、小学校3～6年生を対象に年間通して科学体験を行う発明クラブ員としての参加に繋がった子どもが多数いました。					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>教室を通して、子どもを持つ親からの関心が高いことがわかり、親子で参加できるものづくり教室の開催するなど、教室の充実を図りたい。</p> <p>半田工業高校生が得意を発揮できる場とすることで、科学の楽しさや地域貢献意識が醸成され発明クラブの一員となってもらえることを望んでいる。</p>					
					


## 不登校で悩む親のためのお助け講座

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	NPO法人 子どもたちの生きる力をのばすネットワーク				
助成期間	平成29年度から令和元年度まで	助成金総額	400千円		
協働のゴール	不登校に悩む保護者や児童生徒へ寄り添った支援				
ポイント	地域で子どもたちとその保護者を支えていく。				
<b>◆事業内容</b>					
不登校で悩む児童生徒に寄り添うフリースクールを運営し、居場所づくりを行う団体が、子どもの不登校で悩む保護者のみなさんの一助になるような講座や座談会の開催。					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の選定、</li> <li>・講座、座談会の実施・運営</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金の交付、市報等による広報（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
事業を開始後、活動が認知され相談件数が増加したことにより、不登校で悩む児童生徒のフリースクールへの参加に繋がった。					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>&lt;協働の展望&gt;</p> <p>お助け講座を通じて、不登校で悩む児童生徒の保護者の方にも団体の活動を理解してもらい、保護者同士のつながりの輪が広がってほしい。</p> <p>さらには、活動に共感してくれた方がスタッフとして関わってもらい、今後の支援の充実に繋げていきたい。</p>					
					

## 花園小学校学習支援事業

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	NPO法人 花・はな				
助成期間	平成30年度から令和元年度まで	助成金総額	300千円		
協働のゴール	地域密着型の学習支援事業の自立				
ポイント	自治区と連携した地域密着型のNPO法人による、地域の子どもたちのための学習支援事業。				
<b>◆事業内容</b>					
働く親やひとり親世帯も増えてきている現状にある中で、「地域の子どもは地域で育てる」をスローガンに、花園小学校区の小学生を対象に青山児童センター花・はなで学習支援を行いました。					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所の提供</li> <li>・ チラシ、回覧板等を使った広報</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習支援の講師、指導補助ボランティア（教員経験者や地域の方、学生ボランティア）</li> <li>・ 助成金の交付（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習支援事業を通して、参加している親子が地域のひとたちとのコミュニケーションを図る機会となっている。</li> <li>・ 地域の人たちから指導者を募ることにより、地域の教員経験のある方や学生が得意を活かすことができる場となっている。</li> </ul>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
今後も、働く親やひとり親世帯をはじめとする親子のニーズに応えられるよう事業の継続に向けて、人材と資金の確保をしていく。					

## はんだ de マルシェ

事業分野	経済活動	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	半田市商店街連合会				
助成期間	平成30年度から令和元年度まで	助成金総額	1,000千円		
協働のゴール	知多半田駅前を始めとする市内各地の賑わい創出				
ポイント	地元商店街の魅力発信と市内の賑わい創出。				
<b>◆事業内容</b>					
<p>地元商店街の魅力を「食」や「体験」を通じて伝え、知多半田駅前を始めとする市内各地の賑わいを創出することを目的に、市内全域の約300店舗が加盟するという会の特色を生かして、マルシェを開催している。</p> <p>半田農業高校や半田商業高校の学生も、授業で育てた野菜販売やスイーツなどの開発商品の販売を行うチャレンジショップを出店している。</p>					
<b>◆役割分担</b>					
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の企画、運営</li> <li>・市内店舗への出店募集</li> </ul>				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生のアイデアを活かした商品の開発（半田商業高校・半田農業高校）</li> <li>・助成金の交付、開催場所の提供、市報等による広報（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
<p>初年度は知多半田駅前で開催し、翌年度以降は半田運河などの市内各所を会場として実施し、平均500～800人程度の来場者を獲得し、賑わいの場とすることができた。</p> <p>高校生にとってはビジネストレーニングの機会であり、出店商店にとっては若者の意見や流行を踏まえた企画を取り入れる機会となり、相互に刺激のある場となった。</p>					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>今後も、来場者・出店者募集を強化していきながら、継続事業と位置付け賑わい溢れるまちづくり、商店活性を行っていく。</p> <p>また、今後は商工会議所のイベント事業やHOTORI（半田運河周辺でのイベント）などと連携または同日開催し、規模が大きい事業へと展開していきたい。</p>					
					



## 亀崎建築ものづくり塾

事業分野	まちづくり	協働の形態	補助	継続	継続
団体名	亀崎建築塾				
助成期間	令和元年度	助成金総額	80千円		
協働のゴール	子どもたちの郷土愛の醸成				
ポイント	日本福祉大学で建築を学ぶ学生が行う地域に根差した活動 亀崎地区の子ども・学生・高齢者など幅広い世代を巻き込んだ活動				
<b>◆事業内容</b>					
日本福祉大学で建築を学ぶ学生がものづくりを通して子どもたちに亀崎の魅力に目を向けてもらおうと、木や竹を使ったワークショップを開催している。亀崎のまちを一緒に歩き、子どもたち自身が気づいたまちの課題を解決するための手段として、子どもたちが色を塗ったベンチの設置などを行う。					
<b>◆役割分担</b>					
団体	・ものづくりのワークショップの実施				
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のこぎりやドリルを使う作業のサポート（亀崎思いやり応援隊 K00）</li> <li>・木材等の材料の提供（建設会社）</li> <li>・完成品の設置（亀崎地区の飲食店や施設）</li> <li>・助成金の交付、市報等による広報、活動場所の提供（行政）</li> </ul>				
<b>◆協働の成果</b>					
学生という力を活かした依頼が増えてきている。助成金を活用したことで、団体活動が周知できたことにより、団体活動の活性化につながった。					
<b>◆協働の課題・展望</b>					
<p>大学生が主体となった団体であることから、団体メンバーの入れ替わりが毎年生じることが課題であるが、亀崎地区内の施設や地域で活動する市民活動団体と協力して事業を実施していくことで、持続可能な事業としてきたい。</p>					
